教師の仕事を知る③

高校教師の心得

第⑪回

保護者・地域との連携

監修
服部 次郎
（はっとり・じろう）東京女子体育大学・短期大学教授。筑波大学附属坂戸高等学校教諭，同校長，筑波大学教授などを経て，2006年４月から現職。全国高等学校長協会理事など公職を歴任している。

「開かれた学校」の実現

少し前までの学校は，「閉ざされた聖域」でした。教師は「学校の中のことには，口出ししないでください」と外部からの介入を嫌いました。保護者も「学校の中のことは先生にお任せします」と遠慮していました。

しかし，社会一般の情報公開が進み，閉ざされていた社会の暗部が糾弾されるようになると，学校においても情報公開が求められるようになりました。特にいじめや暴力などが社会問題化すると，その対処における際に，学校の隠蔽体質があると批判が集まり，もはや学校を閉ざしていることは許されなくなりました。現代は民主的な社会を実現するために「聖域なき情報公開」が求められており，学校においても「開かれた学校」がキーワードになっています。

教育基本法第13条には，「学校，家庭及び地域住民その他の関係者は，教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに，相互の連携及び協力に努めるものとする」と規定されています。未来の担い手である子どもを育てるのは社会全体の責任であり，学校，家庭，地域社会や行政機関などが連携・協力して，開かれた教育を実現していかなければならないのです。

保護者への対応

「開かれた学校」を実現するためには，まず教師が中心になって，保護者や地域住民とのコミュニケーションを取っていかなければなりません。少し前までは「教師は若いうちから『先生』と持ち上げられて，人付き合いの苦労もしたことがないから，世間知らずで困る」と言われてきました。しかし，これからの教師はそういうわけにはいきません。

入学式の新入生の初々しい顔の後ろには，親・兄弟姉妹・祖父母など新入生の成長に期待を寄せる大勢の人々の目があり，学校と教師を見つめているのです。教師は目の前の生徒を指導するだけでなく，その後ろにいる保護者などの期待にも応えなければなりません。生徒が学校生活にちょっとした不満を持てば，それはすぐに保護者に伝わり，時に保護者は担任教師のところに相談に来ます。そうした保護者を「モンスター・ペアレンツ」などと言ってはいけません。保護者にとって，学校にちょっとした疑問を持ったときに，より良い解決の方法を探すため，担任のところに相談に来ることは当然の行為なのです。

子どもの健全な成長を願って学校に疑問を呈する保護者と誠実に向き合って，共に解決の方法を考えるのが正しい教師の在り方です。ですから，これからの教師は「世間知らず」ではすまされず，さまざまな職業や生活スタイルを持った保護者と誠実に対応できる力を持っていなければなりません。いじめや暴力などの問題が起きたときに，保護者とこじれて対立してしまうことがありますが，そのほとんどは，教師自身の責任逃れを伴う初期対応の不手際から始まるのです。教師にとっては小さな問題だと思えることでも，保護者の相談には誠実に対応しなければなりません。

地域との連携

本連載第８回「進路指導・キャリア教育」で

触れましたが，今日の高校教育では，健全な勤労観・職業観を育成するためのキャリア教育がより重要になってきています。高等学校学習指導要領「総則」の第５款４―（3）では，「地域や産業界等との連携を図り，産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験の機会を積極的に設けるとともに，地域や産業界等の人々の協力を積極的に得るよう配慮するものとする」と定めています。

これを踏まえて，学校では，地域の企業や商店などに生徒を受け入れてもらう「職場体験」や，地域の企業の社員や商店の経営者に学校に来てもらって実施する「職業人講話」などの体験学習を行っています。

また，本連載第７回「特別活動・部活動」で説明しましたが，部活動も高校教育の重要な活動です。この指導においても，高等学校学習指導要領「総則」の第５款５―（13）に「地域の人々の協力，社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること」と定めています。

このため，学校では校内に指導者がいない場合，地域のスポーツクラブや文化活動の指導者に部活動の指導を依頼するなどしています。

さらに，高等学校学習指導要領「第４章　総合的な学習の時間」においても，「地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと」「公民館，図書館，博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携，地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと」と地域との連携について定めています。

このように，今日の高校教育は地域との連携なしには成り立たないのですが，地域との円滑な連携関係を築いていくのは，主として教師の仕事です。

例えば「職場体験」を実施するためには，まず，地域の企業を訪ねて担当者と面会し，キャリア教育の趣旨を説明して理解してもらいます。受け入れ承諾をもらえると，今度は，日時や受入人数を企業の都合を聞きながら調整し，体験内容を下見して安全面を確認し，事故の対応などについて企業の担当者と話し合います。実際に生徒を引率しての職場体験が終わった後は，日を改めてお礼に伺い，反省点などを確認し，来年の受け入れをお願いして帰ります。

最近は，企業側もキャリア教育の趣旨を理解して，積極的に生徒を受け入れてくれる企業も増えてきましたが，企業側にしてみれば，作業効率の低下や事故対応の危険などがあるため，あまり有り難い話ではありません。ですから，学校側も，毎年，同じ企業に負担を掛けないように，多くの企業に依頼して，輪番で引き受けてもらうなどの工夫をしなければなりません。そのような交渉や調整力なども，現代の教師には求められるのです。

連載を終えるにあたって

最後に，もう一度，自分がなりたい「理想の教師像」を強くイメージしてください。現実は，理想通りにはいかないのは当然です。でも理想を持ってない人はすぐに妥協して現実に流されていきます。現実に負けそうになるとき，前を向く勇気を持たせてくれるのは，初心に抱いた「理想の教師像」です。たくさんの若い人たちが理想を抱いて教師を目指してくれることを祈って稿を終えます。

Point!

①学校に情報公開が求められる時代となった。

②これからの教師は「世間知らず」では済まされない。保護者や関係者に誠実に対応しよう。

③自分がなりたい「理想の教師像」を強くイメージしよう。